

令和元年度 授業改善推進プラン

東京都の教育目標
府中市の教育目標

府中市立府中第四小学校

生活指導の重点

望ましい生活習慣を身に付け、学校・家庭・地域の生活をより楽しく豊かにするために、思いやりのある子供を保護者や地域、近隣の関係諸機関との連携のもとに育てる。

- ①自主的・自律的な生活態度の育成に努め、基本的生活習慣や規範意識の定着を図る。
- ②他を思いやる心や助け合う心を育てるための人権尊重の精神を「あいさつ」運動や年3回行う学期始めの「いじめの授業」を通して養う。
- ③虐待等、早期発見、正確な事実把握に取り組み、全職員で情報を共有化し、協働体制で対応する。また、いじめ、不登校についてはどの学年、学級にも起こりうるものという認識に立ち、学習支援員（メンタルフレンド）、巡回指導員や巡回相談員の制度の活用、家庭や地域との連携により、多面的な児童理解に努める。
- ④「自分の命は自分で守る」意識を徹底させ、犯罪や自然災害などに直面した時、適切な対応のできる子供を育てる。

特色ある教育活動

児童の実態をもとに地域の特性を生かし、伝統的な教育活動及び特色ある教育活動を展開する。

- ①児童の実態や学習内容に応じて、算数科では習熟度別コースの設定を工夫するとともに、担任、少人数担当と連携を図り、基礎基本の定着を図る。
- ②望ましい食習慣を形成する基礎をつくるために、栽培や調理などの体験活動をする。その経験や知識をもとに、自分の体について振り返ったり、見直したりできるようにする。
- ③ハンディキャップ体験、高齢者との交流、外国語活動などのかかわりの体験を通して、自他を認め協調し生きる子供を育てるとともに、情報社会で適正な活動を行う考え方や態度を養う。
- ④多磨っ子フェスティバルやボランティア活動を代表委員会の計画による特別活動行事として実施する。
- ⑤他学年や仲よし学級との交流を深めるために、全校縦割班（多磨っ子グループ活動）や給食交流などを実施する。

特別活動

創意を生かした望ましい集団活動を通して、進んで実践する子供を育てる。

- ①学級活動では、学年、学級の活動をもとに、集団の一員としての自覚を深めるとともに、健全な心身の発達や生活態度の向上を目指す指導に努める。
- ②児童会活動では、より豊かな学校生活を目指して児童の主体的な活動の充実に努める。
- ③クラブ活動は、主体的に参加させるとともに、児童一人一人の個性や社会性の伸長に努める。

学級、学校の環境の整備・充実

- 望ましい学校生活を送るため、学校・学級の諸環境の整備・美化を行い、学校施設の活用を充実させる。
 - ・季節感や児童の成長を感じる校内掲示物を工夫する。
 - ・花いっぱい運動と校庭の環境美化を推進する。
 - ・言語環境を整備し、正しい言語能力を育成する。

家庭・地域社会との連携

- 保護者との連携を深め、一緒に児童のよりよい成長を援助する。
- 児童の姿をもとにした話合いの場を設け、相互啓発に努める。
- 家庭学習の定着・充実に向け、保護者と協力し児童に働きかける。
- 地域の諸行事への参加や、地域の人々との交流を通して、社会の一員としての自覚を促す。

学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で人間性に富み、自主性と実践力のある「みずからきりひらくたまっ子」を育成する。

〈児童像〉

- ①たくましい子
心と身体健康づくりにねばり強く取り組み、最後までやりとげる子供
- ②まっすぐな子
自ら学び、自ら考え、正しく判断し、表現することができる子供
- ③こころあたたかい子
互いを尊重し合い、思いやりの心と協力心をもって、よりよい集団を築こうとする子供

経営の方針

- 各教科、領域において、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育み、自主的で実践力のある児童を育成する。
- 学校や地域、自国の伝統や文化の教育を大切にし、尊重する態度を身につけ、外国語活動や外国語の学習の充実を通して、異文化をも大切にする児童を育てる。
- 生命を尊重し、すすんで健康な心と身体をつくろうとする児童の育成を目指す。
- 保護者・地域、関係諸機関との連携を強化し、自然災害や犯罪、交通事故から身を守る自己管理能力の育成を図るとともに、自助・共助の精神を育む。
- 特別支援教育を推進し、個に応じた指導の充実を図る。

中間目標と方策

- 国語・算数における基礎・基本の力を高め、その定着を図る。
- 習熟度別少人数指導や複数体制の指導の充実を図り、個々の学力の向上を図る。
- 体育的活動の日常化と、健康教育の推進、総合的な学習の時間を中心に食育を推進する。
- 学校と家庭における望ましい学習・生活習慣の定着を図る。
- 地域との連携を深めるために、地域の施設や地域の人材を生かした授業実践を推進する。

本校の授業改善に向けた取組の視点とその具体策

【指導内容、指導方法の工夫】

- 分かりやすい授業を進めるために、毎時間の課題やめあてを明確にして授業を進める。
- 自分の考えをもち、すすんで表現することができるように読みの力を高める。
- 少人数グループ活動を多く取り入れ、発表したり、話し合ったりする機会を多く設定する。
- 言語活動を充実することにより、思考力や判断力、表現力を育てる。
- 授業での理解を深めるために、体験的活動や課題解決型学習を活用する。
- 基礎・基本の習熟を着実にを行い、特に算数の学習に対する意欲を高める。
- ぐんぐんタイムを活用し、読書活動をより推進する。
- 計画的な指導の充実
 - ・基礎基本の習得に重点を置いた、習熟度別の算数指導の実践
 - ・学習支援員との緊密な連携
 - ・週の学習指導計画の作成や学年会などの充実
 - ・年間の指導計画や評価計画の改善
- 【教育課程編成上の工夫】
- 授業時数の確保
 - ・学校行事の見直しや精選、行事实施に伴う時間割の調整
 - ・授業内容と連携した多磨っ子タイムの実施
- 指導計画や評価計画の実施状況の確認
- 【校内における研究・研修の充実】
- 心の教育の推進を目指し、「特別の教科 道徳」を中心に全教育活動で道徳教育を推進する。
 - ・「考え、議論する道徳」に向けた授業改善
 - ・道徳科における主体的・対話的で深い学びの実践のための研究・研究分科会の話合いの充実
- 教育情報の共有化
 - ・先進校の教育情報の収集や提供とICT技術の活用
- 指導力向上への支援、援助
- 【評価活動の工夫】
- 評価計画をもとにした適切な評価の実施
 - ・指導と評価の充実や一体化
 - ・個々の学習状況の把握と適切な支援
- 【家庭・地域との連携】
- 家庭学習の充実
 - ・家庭と連携し、毎日の家庭学習を充実させる（学習マラソン・ベーシックドリルの活用等）
- 地域教材や外部人材の活用
 - ・保護者、地域の方々の授業への参加協力

児童の実態

- ・素直で明るく心やさしい児童が多い。
- ・課題に向かってまじめにこつこつ努力する児童が多い。
- ・自分の気持ちをうまく表現できない場合がある。

期待する児童像

- ・自他の生命を大切にし、相手を尊重し、思いやりのある子供
- ・学ぶ意欲をもち、自主的に考え、創造性豊かな子供

各教科

- 国語 国語に対する関心を深め言葉を豊かにし、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる。
- 社会 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
- 算数 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
- 理科 自然に親しみ、見通しを持って観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物、現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
- 音楽 音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
- 図工 表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、創り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
- 家庭 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるとともに、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。
- 体育 適切な運動の経験と健康、安全についての理解を通じて、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
- 生活 具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせる。
- 外国語 外国語による聞くこと、話すことの活動を通して、コミュニケーションの素地となる資質・能力を育てる。

総合的な学習の時間 「多磨っ子タイム」

キャリア教育とコミュニケーション能力の育成を柱とし、自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断して、よりよく問題を解決しようとする資質や能力の基礎を養う。

- ① 「府中を愛し、自他を大切にし、自己の生き方を考える多磨っ子」の育成を目指し、特に「キャリア教育」を中心課題とし、教科との関連の中で創意工夫を生かした総合型の教育活動を更に推進する。
- ②地域や保護者との連携を深め、その教育力を活用した学習活動の充実を図る。

特別の教科 道徳

自他の人格を尊重し、自分の生き方を深く見つめさせる指導を通して、道徳的実践力を育成する。

- ①道徳の時間を核に、教育活動全体を通して、児童相互の豊かな関わりを形成する。
- ②自他の生命を尊重し、生命あるものを大切にする心の育成を図る。
- ③道徳的な判断力を高め、実践的態度の育成に努める。
- ④郷土府中に根ざした道徳資料集の活用を図り、ふるさと府中や我が国の文化と伝統への関心を高め、大切にする心を養う。
- ⑤道徳の授業公開を通して、主体的・対話的で深い学びの実現や道徳授業の質的改善に努めるとともに、保護者・地域との共通理解や連携を深める。